

# きぼうのいえニュースレター

Hope House

## きぼうのいえ

特定非営利活動法人 (NPO) きぼうのいえ

きぼうのいえニュースレター 2010年春号



### 上智大学名誉教授のアルフォンズ・デーケン先生、来る！

3月29日月曜日、午前中にデーケン先生が妹さんであるシスターとご一緒に、きぼうのいえに来てくださいました。とくに印象に残ったのは、デーケン先生が、「私はホスピスに関心のある方たちとともに、世界中のホスピスの視察旅行をしていますが、きぼうのいえのように元ホームレースの方を対象としたホスピスは大変めずらしいです。このともしびを絶やさないで長く続けてほしい」と、仰いました。僕（山本雅基）が思わず笑ってしまったのは、いつも著書のサイン攻めにあっておられるデーケン先生が、カバンの中から僕の本（山谷でホスピスやります）を取り出すや否や僕の目の突き出して、「やまもとさん、サインください」と、仰ったことです。僕は思わず仰け反ってしまいました。デーケン先生は、「大切にします」と、仰って大事にカバンに納められたのでした。

きぼうのいえ 山本雅基

### きぼうのいえ近況報告



きぼうのいえでは、お花見の日を4月8日に定めたものの、当日まで、雨が降らないか、寒くはないか、桜の花がもつかどうか、楽しみにしている人が熱を出してしまわないか、ハラハラドキドキでした。

オープンから8年目、これまで7回のお花見は奇跡的にお天気に恵まれて、毎年、素晴らしい思い出を作ってきました。

「きぼうのいえは守られている。必ず今年も素晴らしいお花見になる」と信じて祈って・・・当日。前日までの雨や寒さが嘘のような青空のもと、今年も賑やかなお花見が催されました。参加人数は50名を越え、これまでで一番に賑やかなお花見になりました。

三味線の松本優子さん、盛り上げボランティアさんたちによって、盛り上がりは最高潮に。

そして、北海道帯広市役所からプレゼントしていただいたオレンジ色のジャンパーを全員で羽織って（これは薄いのに暖かくて、ほんとうに嬉しかったです！）記念写真を撮りました。

今年も無事終えられたお花見。ほっとしました。来年の顔ぶれは考えまい。今この瞬間を心から楽しもう！

きぼうのいえ 山本美恵

### ★★ お知らせ★★

■インターネットでクレジットカード決済によるご寄付と後援会費の受け付けをはじめました。きぼうのいえのホームページからご利用いただけます。

<http://www.kibounoie.info>

■郵便振込用紙を同封しております。すでに後援会費をお振込みくださいました皆様には重複しております。ご容赦くださいませ。



## きぼうのいえ施設長、山本雅基からのごあいさつ

最近、テレビのスイッチを入れると、『孤独死』、『自殺』、『ニート』、『虐待』といった話題が満ち満ちています。いい加減、そういう話題に触れることにうんざりして、チャンネルを変えても、また同様の報道をしていたりします。私たちがそんな話題漬けになっている現在、そこから『希望』を見つけることはできないのでしょうか。

数年前から東京大学社会科学研究所では、『希望学』というものが創設されているそうです。人間は閉塞状況の中では生存力を発揮できない。『希望』を持たなければ前に向かって進んでいけない、そんな人間の根源的な弱さがようやくアカデミズムの世界でも理解されてきたのでしょうか。

『きぼうのいえ』は人が病を得て、この世を去っていくホスピスです。にもかかわらず、こんな明るい名前が付けられているのはなぜでしょう。それは、私たちが抱く大らかな楽観主義に由来します。『死』ということば自体がネガティブなイメージをすでにもっていますが、本当に『死』は否定すべきもの、拒絶すべきものなのでしょうか。この世には多くの不条理や不合理でいっぱいですが、でも考えてみればこういうことは人間の身体性とかかわって発生していることが原因のことばかりです。他人にあんなことを言われた、飛行機が墜落した、転変地帯が起きた、9.11のテロ、いたいけな子どもが死んだ、みんなみんな肉体、物質の世界の出来事です。



『きぼうのいえ』を卒業していった小西昇三さんという人は、亡くなる時間が近づくにつれて、どんどん明るい表情になっていきました。

「すべてに感謝です!」、「私は喜んで前に向かって死んで行きます!」、「ああ、死ぬのが楽しみです!」

そんな風に、死という現象を、苦しみの原因である物質世界からの卒業ととらえて、新しい『いのち』への出発と受けとめていったのです。『死は新しいいのちの誕生への歓喜のとき、祝祭』そう考えることに皆さんはどうお感じになるのでしょうか?

88歳で旅立っていった野口八重子さんは、一時意識が消失したあと、きぼうのいえの自室で息を吹き返しました。そしてこう言いました。「わかった!! あんたたちがどれほど私のことを心配してくれているか、愛してくれているかわかった。だから、わしゃもういつ死んでもいいよ!!」

彼女の人生のレッスンの課題は「心から愛されることを知ること」だったのでしょうか。そしてそれが解けたとき、彼女は厳しい「人生という名の道場」から卒業して、ふるさとに戻っていったのではないかと考えています。

私たちはもっと『希望』を持っていいと思うのです。『怖れ』自体が否定的なエネルギーを誘因します。もっと天真爛漫に、生きることを楽しめるように、お互い支えあいませんか。『聖書には、人生を楽しめって書いてあるんだよ、苦しめなんてひとつも言っていないんだから』うちの入居者さんのセリフです。

僕も鬱(うつ)やニートや失望を何度も経験しましたが、明るい地平にゆっくりと着地していく日々を送っています。そして忙しい、慌ただしい1日が終わり、翌日からはまた新しい1日が始まります。僕たちがユーモアたっぷりに生き、きぼうのいえで楽しみながら生活していることには、こんな考えかたがすみずみまで行き渡っているからでしょう。

「不条理は条理が飲み込み、不合理は合理に飲まれる!」、「宇宙を統べている原理は統合と調和の道だ!」

それが『きぼうのいえ』の死生観であり、世界観です。この原理に僕たちが寄って立つ限り、ネガティブな現象に負けることはありません。どうか、皆さんも元気をだして、この厳しい期間を乗り越えていきましょう。乗り越えるのがしんどい人は、ハードルの下をくぐって超えて行きましょう(笑)。

末筆になりましたが、いよいよ今日から、『きぼうのいえ』のホームページ上で、インターネット募金が始まりました。募金の浄財を、『きぼうのいえ』の生きた血液としてより良く活用していきたいと思えます。

どうか『きぼうのいえ』が皆さんにとっての『希望』のシンボルとして光輝くともしびであり続けますように、ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

きぼうのいえ施設長 山本雅基